



シリーズ名:2010 年全日本選手権フォーミュラ・ニッポン特別戦

JAF Grand Prix SUPER GT & FORMULA NIPPON FUJI SPRINT CUP

レース 1:距離: 4.563km×22 周(100.386km)

レース 2:距離: 4.563km×22 周(100.386km)

フリー走行予選日:11 月 12 日(金)晴れ:観衆 9,500 人(主催者発表)

決勝 1 日目:11 月 13 日(土)曇り:観衆:23,000 人(主催者発表)

決勝 2 日目:11 月 14 日(日)曇り:観衆 33,000 人(主催者発表)

「MOTUL TEAM 無限」レース1で表彰台目の4位。レース2では念願の3位表彰台を獲得。

2010 年フォーミュラ・ニッポンの特別戦「JAF Grand Prix SUPER GT & FORMULA NIPPON FUJI SPRINT CUP」が、静岡県駿東郡、御殿場市街から程近い、富士スピードウェイにて行われた。シリーズ戦はすでに終了しているものの、レース文化の振興を目的に特別戦として SUPER GT と併催で開催。ノンタイトル戦ながらも、初めての試みのこのレースで「MOTUL TEAM 無限」は是非とも表彰台を獲得したいところ。チームは目標達成に向け、万全の体制でサーキットに乗り込んだ。

11 月 12 日 (金)

フリー走行 8:40～

JAF グランプリ富士スプリントカップの初日、金曜日の朝一番 8:40～ 35 分間に渡り行われたフリー走行。パワーステアリングシステム導入後の初の富士ということもあり、ラップタイムの上昇やそれに伴う、足回りのセッティングを入念に行い、マシンをコースに送り出す。ロー・ダウンフォース仕様に仕上げたマシンはストレートエンドで 310km/h オーバーに達する。5 周目に自己ベスト 1' 25.691 を記録し、ピットイン。コーナリングスピード上昇による、高速コーナー100R でのアンダーステア対策を行う。チームはドライバー・コメントを基に、アンチロールバーを調整。また、比較の為に異なる仕様のフロントノーズを装着し再びマシンをコースに送り出す。しかしベストタイムを更新できずに、タイムアップ。結局、最初に出したタイムで [1' 25.691=11 位] 最高速 [312.229 km/h=7 位] でこのセッションを終えた。



KTEL



Sabelt

CRADLE

M-TEC Press Information



11月12日(金)フリー走行

P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	1	ロイク・デュバル	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	R1'23.944	-	-	195.69
2	36	アントレ・ロッチェラー	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	1'24.644	0.7	0.7	194.07
3	19	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ	Mobil 1 TEAM IMPUL	TOYOTA RV8K	1'24.649	0.705	0.005	194.06
11	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'25.691	1.747	0.107	191.7

タイヤはブリヂストン(BS) シャシはSwift FN 09 ワンメイク

公式予選 13:00～

最終戦鈴鹿に続き、今回の特別戦も2レースで開催。しかし予選は特別戦ながらの変則的なルールが採用された。スーパーラップ方式の予選において第1コーナー手前の計測地点で速いスピードをマークしたマシン順にレース1のグリッドが決められ、また1周のラップタイム計測のタイム順にレース2のグリッドが決められる。各陣営はラップタイム向上を狙うチームもあれば、タイムを視野に入れず、最高速のみを狙って究極のロー・ダウンフォースで臨むチームも見受けられる。出走は今年のランキング順。井出選手からのアタックとなった。13:02 コースイン。計測は2周のウォームアップラン後に開始される。アタックのサインとして、オーバーテイク・ライトを点滅させながらアタックに入る井出選手。トップスピードは303.456km/h、ラップタイムは1'26.668をマークし、ライバル陣営の目標タイムを記録する。結果的には、最高速度は6位、ラップタイムは8位となり、レース1のグリッドは3列目イン側の6番手。レース2のグリッドは4列目イン側の8番手。今シーズンのベストグリッドとなった。



M-TEC Press Information



11月12日(金) 第1レース予選(最高速予選)

P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay
1	7	ケイ・コッツォリーノ	Team LeMans	TOYOTA RV8K	1'26.629	314.502
2	36	アンドレ・ロッター	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	1'24.776	310.791
3	37	大嶋 和也	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	1'26.798	310.256
6	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'26.668	303.456

タイヤはブリヂストン(BS) シャンはSwift FN 09 ワンメイク

11月12日(金) 第2レース予選

P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	36	アンドレ・ロッター	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	1'24.776	-	-	193.77
2	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	TOYOTA RV8K	1'25.135	0.359	0.359	192.95
3	10	塚越 広大	HFDP RACING	HONDA HR10E	1'25.545	0.769	0.41	192.03
8	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'26.668	1.892	0.039	189.54

タイヤはブリヂストン(BS) シャンはSwift FN 09 ワンメイク



M-TEC Press Information



11月13日(土) 決勝レース1 12:45～

井出有治選手が駆る、「MOTUL TEAM 無限」のマシンは12:30のコースオープンと同時にコースイン。今シーズンベストグリッドとなる3列目イン側の6番グリッドにマシンを停止させる。コース上で最後のマシンチェックを終えると、12:45にフォーメーションラップが開始された。風が冷たく、気温は16℃、路面温度20℃という冷えた路面温度ということもあり、井出選手はスタートダッシュに備え、丁寧にタイヤに熱を入れる。そしてシグナルブランクオフとともに、スタートが切られた。スタートダッシュを得意とする井出選手は抜群のスタートを切り、コースイン側から1コーナーに進入。2番手までポジションアップを果たす。オープニングラップを2位で終え、続く2周目の1コーナー、最終コーナーから井出選手のスリップストリームに入っていた#37 大嶋選手に先行を許し、3位にポジションを落とす。3周目の1コーナーでも#10 塚越選手に抜かれ、4位まで後退してしまう。4周目以降、マシンが安定すると自己ベストを塗り替えながらラップを重ねる。12周目には自己ベストとなる、1' 26.840を記録。3位との差を2秒弱まで詰める。「オーバーテイクボタンを使って!」という無線が手塚監督から飛ぶ。後半の粘り強い走りに定評のある井出選手。ライバル達がラップタイムを落とす中、1分26～27秒の安定したラップタイムを刻み、後続を引き離す。そしてこのまま22周を走りきり、4位でフィニッシュ。今期ベストリザルトを残した。

井出有治選手コメント (レース1)

スタートで前に出られたので、最初の2～3周でポジションを守れば表彰台が見えていたレースでした。ペース的にも悪くなかったのですが、3位の塚越選手に追いつくことが精一杯の状態でした。表彰台に上がりたかったので非常に悔しい結果です。明日はスタートポジションが2つ後ろですが、マシンを改善しなくてはならない点もわかったし、後はドライバーの力で良いレースをします。表彰台を狙って頑張ります。



M-TEC Press Information

11月13日(土) 第1レース決勝

P	No	Driver	Team	Engine	Lap	Time /Behind
1	36	アンドレ・ロッセラー	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	22	31'48.539
2	37	大嶋 和也	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	22	9.591
3	10	塚越 広大	HFDP RACING	HONDA HR10E	22	13.631
4	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	22	14.407

タイヤはブリヂストン(BS) シャンはSwift FN 09 ワンメイク

11月14日(日) 決勝レース2 12:45~

前日、4位獲得で波に乗る「MOTUL TEAM 無限」の井出有治選手。レース1の活躍で周囲からの期待も大きく、8番手グリッドには多くの報道陣や関係者が集まった。スタート前には航空自衛隊の戦闘機によるエアーショーが開催され、この派手なオープニングセレモニーは観客だけでなく、ドライバー、関係者も上空に釘付けとなった。上空は雲が多いながらも雨の心配は無いようだ。そして12:45、フォーメーションラップスタートと同時にレース2でもロケットスタートを狙う井出選手は、マシンを左右に振り、タイヤに熱を入れていく。そしてシグナルブラックオフ、今シーズン最後のフォーミュラ・ニッポンの決勝となるレース2の火蓋がきられた。井出選手は今期最高のスタートダッシュを決め一挙に6台を抜き2位で1コーナーに入る。この瞬間、観衆から大きな歓声があがる。更にトップを走る#36 ロッセラー選手を果敢に攻め立てる。オープニングラップを2位で終えた井出選手は2周目の第13コーナーで#31 山本選手の先行を許し3位に落ちるものの、その後は3位をキープ。後続をピンシャリと押さえ周回を重ねる。レース半分となる11周目を終えたところで後方4位とのマージンは約2秒、残り5周となったところで4位以下を4秒以上引き離し、3位単独走行。表彰台が見えてくる。ペースも1分27秒台に安定。そして22周目のファイナルラップ、「MOTUL TEAM 無限」の井出選手は、最終コーナーをオーバーテイクシステムのライトを点滅させながらコーナーを駆け上がって大観衆の中、見事3位でゴール。「MOTUL TEAM 無限」として初の表彰台を獲得した。井出選手も2007年以来のフォーミュラ・ニッポンでの表彰台となった。



M-TEC Press Information

井出有治選手コメント（レース 2）

シリーズ戦でこういう結果（3位表彰台）を残せばよかったですけれど、皆様が待ち望んでいた結果を残せて非常に良かったです。スタートは欲張らずにスムーズな（クラッチ）ミートを心がけ、1コーナーまで思い切って行きました。ペースも昨日に引き続き、安定したラップタイムで22周を走りきることが出来ました。本当に1年間応援ありがとうございました。また来年も応援宜しくお願いします。



勝間田チーム代表コメント

大変、ほっとしています。井出選手のスタートの良さを生かして、先頭グループで走れたし、レースラップも良かったので、最後の最後で、チーム全体として良い結果で終われたことは非常に良かったです。これもチームを支えて頂いたスポンサーや関係者の方々のおかげです。来年も頑張りますので宜しくお願い申し上げます。



手塚監督コメント

表彰台獲得できました。スタートで上位進出し、表彰台に上ればと思っていたら、そのとおりになりました。一年間の集大成が結果に結びついたと思います。今年一年、皆様の協力のもと、頑張れたので良い結果で終われました。本当にありがとうございます。来年は飛躍のシーズンとして活動してまいりますので、皆様の引き続きの応援と、ご支援、宜しくお願いします。



M-TEC Press Information

11月14日(日)第2レース決勝

P	No	Driver	Team	Engine	Time	TOPTIME /BEHIND
1	36	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	22	31'39.941
2	31	山本 尚貴	NAKAJIMA RACING	HONDA HR10E	22	6.989
3	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	22	22.299

タイヤはブリヂストン(BS) シヤシはSwift FN 09 ワンメイク

